

令和6年度決算分 豊川市民病院経営強化プラン評価シート

1. 役割・機能の最適化と連携の強化

指 標	R6年度実績値	R7年度目標値	実施状況	
高度急性期病床数(床)	114	115	病床利用率は一定の水準を維持 89.2→88.2→89.3%	
急性期病床数(床)	314	313	病床利用率は一定の水準を維持 84.7→93.5→93.9%	
精神病床数(床)	65	65	病床利用率は上昇傾向 46.7→57.1→50.3%	
手術件数(件)	7,708	7,252	入院= 3,301→3,486→3,550 件 外来= 3,444→3,995→4,158 件	
放射線治療患者数(人)	228	170	放射線治療実施件数 3,191→3,932→4,094 件	
患者満足度(%)	76.8	76.0	患者満足度調査 76.8→75.1→76.8%	
患者紹介率(%)	71.1	65.0	患者紹介者数 12,235→13,699→14,154 人	
患者逆紹介率(%)	92.8	91.0	患者逆紹介数 16,326→18,569→18,457 人	
<b>■主な具体的な取組</b> ・ロボット支援下手術(ダヴィンチ Xi)の活用… 38→83→157件 ・ESD(消化器内科領域にて行う「がん」切除術の一種(※内視鏡的粘膜下層剥離術)) 症例の対応 … 80→106→106件 ・化学療法室の活用(外来抗がん剤調製延患者数)… 4,754→4,942→5,717 件 ・救急搬送受入件数… 6,856→8,371→7,959 件 ・ドクターカー出動回数…【R5→R6】 234→192回			前年度 事務局評価	前年度 委員会評価
			4	4
<b>事務局からのコメント</b> ・手術件数を始めとする各指標の大半は目標値を上回っており、高度急性期・急性期機能を担う基幹病院としての役割・機能と連携強化は着実な進捗が認められる。全体として達成項目が多いことから4点と評価した。			事務局評価	委員会評価
<b>委員会からのコメント</b> ・別紙のとおり			4	4

評価は5点満点とし、3点を基準とする。(◆矢印で示した数値は R4→R5→R6 の実績値の推移を示しています。)

目標を大きく上回れば5点、上回れば4点、予定どおりなら3点、予定に満たなかったら2点、予定を大きく下回れば1点

令和6年度決算分 豊川市民病院経営強化プラン評価シート

2. 医師・看護師等の確保と働き方改革

指 標	R6年度実績値	R7年度目標値	実施状況	
医師数(人) ※研修医含む	132	145	関連大学への訪問等の実施	
看護師数 (人)	512	510	募集は通年／採用試験を6回実施	
研修医マッチング率 (%)	100.0	100.0	病院説明会を年3回実施	
時間外勤務時間数対前年度比 (%)	92.6	100.0	110.8→98.9→92.6%	
年次有給休暇平均取得日数 (日)	12.8	12	11.4→12.7→12.8日	
職員満足度(%)	38.3	41.0	職員満足度調査 40.2→39.0→38.3%	
<b>■主な具体的な取組</b> ・医学生等の見学受け入れ…143人 ・医師事務支援センターの取組推進(R6年度末時点の医師事務作業補助者数 34人) ・医師に関して、勤務間インターバルの確保の徹底・労働時間短縮計画の作成。 ・認定看護師・特定行為 <sup>*</sup> 研修を修了した看護師の活動拡大(R6年度末時点:認定看護師18人／特定行為研修修了者7人)			前年度 事務局評価	前年度 委員会評価
			3	3
<b>事務局からのコメント</b> ・看護師の人員数については目標を達成しているが、医師は減少した。一方で特定行為の研修修了者の増加(+2名)・医師事務作業補助者の増員(+2名)など医師の業務負担軽減に一定の進捗が認められる。引き続き関連大学との連携推進に努めるなど医師確保に取り組む必要がある。そして職員満足度については、前年度実績値を下回る値となったが、全体的には予定どおりにあることから3点と評価した。			事務局評価	委員会評価
<b>委員会からのコメント</b> ・別紙のとおり			3	3

評価は5点満点とし、3点を基準とする。(◆矢印で示した数値は R4→R5→R6 の実績値の推移を示しています。)

目標を大きく上回れば5点、上回れば4点、予定どおりなら3点、予定に満たなかったら2点、予定を大きく下回れば1点

令和6年度決算分 豊川市民病院経営強化プラン評価シート

3. 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

指 標	R6年度実績値	R7年度目標値	実施状況	
感染症対策医療資材の備蓄 (か月分)	3	3	着実な備蓄を確保	
関連大学感染症セミナー参加者 (人)	202	100	当院独自の感染症セミナーの実施…11回 関連大学病院主催の感染症セミナーの参加…5回	
<b>■主な具体的な取組</b> ・院内感染対策研修会の実施(年2回)…受講率【R5→R6】92.0→90.7% ・院内感染に関する他院との相互訪問…豊橋医療センターと評価を実施 ・新たに院長・看護局長による感染管理に係る院内ラウンドを実施(20回) ・改正感染症法による医療措置協定 <sup>*2</sup> を愛知県と締結 ・愛知DPAT <sup>*3</sup> (災害派遣精神医療チーム)に関する協定書を愛知県と締結し、活動を開始。 ・大規模地震時医療活動訓練の実施…年1回実施(院内)・市及び医師会主催の訓練に参加 ・地域中核災害拠点病院としての災害対応体制の強化…保健所主催の東三河南部医療圏医療活動訓練に当院 DMAT <sup>*4</sup> が参加。新たに医師・業務調整員 各1名が愛知県 DMAT 養成研修を修了。			前年度 事務局評価	前年度 委員会評価
<b>事務局からのコメント</b> ・令和4年度に新設した外部の感染症対策の専門医師を中心とした当院独自の感染症セミナーを引き続き実施したほか、新たな活動として、要請のあった市内の介護保険施設に対する訪問指導を行うなど、感染症対策を着実に実施した。 また、災害医療に関して着実な訓練の実施はもとより、DMATの人材確保やDPATの活動開始など災害対応体制の進捗が認められることから4点と評価した。			事務局評価	委員会評価
<b>委員会からのコメント</b> ・別紙のとおり			4	4

評価は5点満点とし、3点を基準とする。

目標を大きく上回れば5点、上回れば4点、予定どおりなら3点、予定に満たなかったら2点、予定を大きく下回れば1点

令和6年度決算分 豊川市民病院経営強化プラン評価シート

4. 施設・設備の最適化

指 標	R6 年度実績値	R7年度目標値	実施状況	
<b>■主な具体的な取組</b> ・計画的な施設の予防保全の実施(冷温水発生機 等) ・薬局部門システム関連機器(アンプルピッカー等)や多目的デジタル X 線 TV システムなど医療機器の更新 ・オンライン資格(マイナ保険証)確認用機器の増設 ・救急時医療情報閲覧機能 <sup>*5</sup> の導入 ・サイバーセキュリティ対策のためのオフラインバックアップ体制の整備 ・電子処方箋の導入に向けた体制整備(ハード・ソフトウェア等の接続環境の整備)			前年度 事務局評価	前年度 委員会評価
事務局からのコメント			事務局評価	委員会評価
・施設の予防保全の実施、サイバーセキュリティ対策、マイナ保険証の活用などの医療 DX への対応については予定どおりの進捗が認められるため3点と評価した。				
委員会からのコメント			3	3
・別紙のとおり				

評価は5点満点とし、3点を基準とする。

目標を大きく上回れば5点、上回れば4点、予定どおりなら3点、予定に満たなかったら2点、予定を大きく下回れば1点

令和6年度決算分 豊川市民病院経営強化プラン評価シート

5. 経営の効率化等

指 標	R6年度実績値	R7年度目標値	実施状況	
経常収支比率 (%)	95.3	97.4	経常収支比率は前年度比 4.3%低下 100.1→99.6→95.3% 入院収益は前年比 112,529 千円増加(1.0%増) 外来収益は前年比 241,646 千円増加(4.5%増) 総費用は前年比 1,195,175 千円増加(6.3%増) 詳細は11~12頁のとおり	
修正医業収支比率 (%)	88.1	90.1	一定の水準を維持/85.7→91.6→88.1%	
患者一人当たり入院単価 (円) ※精神含む	69,724	68,400	上昇傾向にある/65,757→68,138→69,724 円	
患者一人当たり外来単価 (円) ※精神含む	18,629	18,200	上昇傾向にある/17,537→18,062→18,629 円	
平均在院日数 (一般病床/日)	11.1	11.4	短縮傾向にある/13.1→12.6→11.1日	
職員給与費対医業収益比率 (%)	56.4	53.6	上昇に転じた/56.5→54.0→56.4%	
<b>■主な具体的な取組</b> ・上位または新たな施設基準や診療報酬項目の取得…小児入院医療管理料3/急性期看護補助体制加算の注2に規定する 夜間100対1急性期看護補助体制加算・夜間看護体制加算など ・診療材料の共同購入品目の拡大…品目数 474→464→408 件/削減効果額 40,616→58,559→74,261 千円 ・後発医薬品の活用…後発医薬品使用率 88.5→89.2→91.4%			前年度 事務局評価	前年度 委員会評価
			4	4
事務局からのコメント			事務局評価	委員会評価
・単価は向上し入院・外来収益は増加したものの、人件費のベースアップや材料費・経費等の物価高騰により大きく費用が増加し、収益と費用の乖離が大きい。経営成績の悪化は物価等の上昇幅に診療報酬(公定価格)が対応できていないことが根本にあるが、経常収支比率は目標値を下回っていることから2点と評価した。			2	3
委員会のコメント				
・別紙のとおり				

評価は5点満点とし、3点を基準とする。(◆矢印で示した数値は R4→R5→R6 の実績値の推移を示しています。)

目標を大きく上回れば5点、上回れば4点、予定どおりなら3点、予定に満たなかったら2点、予定を大きく下回れば1点

## 【用語解説】

### \*1 特定行為

医師があらかじめ作成した「手順書」に基づき、看護師が患者の状態を見極め、適切なタイミングで「診療の補助」を行う制度のこと。  
(21 区分 38 行為)

### \*2 改正感染症法による医療措置協定

新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがある感染症(新興感染症)の発生及びまん延に備えるため、2022年12月に感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「感染症法」という)が改正された。

改正感染症法では、国、都道府県及び関係機関の連携協力による病床、外来医療及び医療人材並びに感染症対策物資の確保の強化、情報基盤の整備等の措置を講ずることを目的に、都道府県と医療機関等及び病原体等の検査を行っている機関等との間に協定を締結することが規定された。

### \*3 DPAT

(Disaster Psychiatric Assistance Team の略) 精神科医、看護師、業務調整員(3名以上で構成)で構成され、大規模災害時等に現場に派遣され、精神科医療機関の支援、被災者の心のケア活動等を行う医療チームのこと

### \*4 DMAT

(Disaster Medical Assistance Team の略)大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、概ね48時間以内から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームのこと。

### \*5 救急時医療情報閲覧機能

救急時において、意識障害等の同意取得困難な患者に対しても、薬剤情報や手術情報等のレセプトに基づく医療情報を閲覧し、迅速かつ適切な検査・治療等に活用できる機能のこと。

(引用:厚生労働省 HP/愛知県 HP/厚生労働省 DMAT 事務局 HP)

令和6年度決算分 豊川市民病院経営強化プラン評価シート 別紙

評価項目	委員会からのコメント
1. 役割・機能の最適化と連携の強化	<p>精神病床がある総合病院という視点でみた場合、一般病床の高度急性期・急性期病床の利用率は高い水準であり、その点は評価できる。一方で精神病床の利用率は全国的に厳しい傾向にあるが、精神病床の有効活用に努められたい。</p>
	<p>患者紹介率は目標を達成している。今後は目標水準を引き上げ、より高い数値を目指すべきである。</p>
	<p>高い病床利用率や手術件数の増など地域の基幹病院としてしっかりと取り組んでいると評価する。</p>
	<p>「役割・機能の最適化と連携の強化」が病院の経営強化に繋がるよう、引き続き取り組んでいただきたい。</p>
2. 医師・看護師等の確保と働き方改革	<p>時間外勤務の減、年次休暇取得率の増は働く環境の改善に繋がるものと評価するが、職員満足度の結果には反映されず、満足度が下降傾向となっている点については、内容を分析し、効果的な対策を考える必要がある。</p>
	<p>年次休暇の取得率について、職種によりバラつきもあると考えられる。それらを踏まえて休暇取得の推進など就労環境の向上に努められたい。</p>
	<p>医師の有給休暇の取得について、更に取得日数が増えることを期待する。</p>
	<p>数字上、医師数が目標値に達していないことで、市民は不安に感じると思うので引き続き医師確保に取り組んでいただきたい。</p>
	<p>医師の確保は病院運営に直結する。リクルート活動等を通じた研修医との着実なマッチングや関連大学との連携など医師確保に向けた取組を継続的に実施することが重要。</p>

令和6年度決算分 豊川市民病院経営強化プラン評価シート 別紙

評価項目	委員会からのコメント
3. 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組	感染管理に係る院内ラウンドを新たに実施するなど感染症の制御に係る取組は評価できる。引き続き各種の取組の継続をお願いする。
	新興感染症よりも今後は災害対応の必要性が増してくると思うので、災害対応の一層の取組を進めていただきたい。
4. 施設・設備の最適化	病院の経営状況悪化により、医療機器の更新や施設の老朽化対応が先送りになっていくことが懸念されるため、先進事例等を研究し、対策を検討していくことが重要である。
	これまでの病院の役割・機能に対する施設・設備の最適化の視点に加え、経営状況や資金繰りなど財務面に対する最適化の視点も必要だと思われる。
	「医療DX」について、現状では診療報酬に適正に反映されているかどうかは疑問もあるが、現実として相当のコストが生じる。診療報酬での更なる評価を国に期待するとともに、既存の関連する加算などは着実に算定し対応していく必要がある。
	「救急時閲覧機能」など「医療DX」が宝の持ち腐れにならないよう有効活用を進める必要がある。
	年々、サイバーセキュリティ対策は重要度が増している。引き続き着実に取り組んでいただきたい。

令和6年度決算分 豊川市民病院経営強化プラン評価シート 別紙

評価項目	委員会からのコメント
5. 経営の効率化等	<p>経常収支比率は悪化しているものの、入院・外来単価や平均在院日数は良好な傾向にあり、一定の評価はできる。今後の収支改善に期待する。</p>
	<p>人事院勧告による賃金のベースアップや材料費・経費の物価高騰等により費用が大きく増加している。病院事業において、費用をカバーするのは基本として診療報酬しかない。現状と目標値との間に乖離を感じる。</p>
	<p>医師数の規模を踏まえると入院収益は向上の余地があると考えられる。病床の回転率の向上など一層の経営努力が必要である。</p>
	<p>病床の回転を上げることは、収支改善の重要なポイントである。そのためには地域の医療機関等との更なる連携強化や機能分化が必要である。</p>
	<p>医業収益の改善に向けた取り組みについては目標に沿って着実に進められているが、人件費や経費等が想定以上に増加しており、経営面では大変厳しい状況となっている。全国の自治体病院等で同様の状況となっているため、診療報酬改定の動向に注視し、有利な加算項目の取得や更なる経費の圧縮に取り組む必要がある。</p>
	<p>更なる経営改善のためには、より踏み込んだ改革的な取組が必要である。</p>

## (R7) 豊川市民病院経営強化プラン評価会議 委員一覧

(敬称略)

	役 職 等	氏 名	備 考
1	豊川市医師会副会長	可知 裕章	代表
2	公 認 会 計 士	池戸 敦哉	
3	豊橋創造大学 短期大学部准教授	矢島 明彦	副代表
4	豊川市財務部長	八木 敏光	
5	豊川市福祉部長	小島 基	
6	豊川市子ども健康部長	木和田 聡哉	
7	豊川市民病院副院長	寺西 太	
8	豊川市民病院事務局長	中村 敏之	